

A-3:研究機関とURA

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 13:50-15:20 web-only

若手研究者支援の良い塩梅とは

近年、研究力強化・若手研究者総合パッケージに代表されるように、若手への重点的な支援が施行されている。ポスト・資金・環境の面でこれまでになく充実した支援策の施行が進む一方で、資金制度・研究のステージ・年齢などの移行に伴い、成果を上げて研究資金やポストの獲得状況によっては研究・キャリアの発展が停滞するケースもあり、今後の課題となる可能性がある。

本セッションでは、若手から中堅研究者がスムーズにキャリアを発展させられるよう、「切れ目ない支援」や「支援の良い塩梅」について多角的な立場から議論することを目的とする。セッションに先立ち、学内の研究者を対象としたアンケート調査を実施することで、若手・中堅研究者の研究環境や支援の実態を把握する。

セッション前半では以下に述べる4名が異なる立場から話題提供をする。①自身も研究経験があり、大阪大学大学院理学研究科において主に研究企画推進、広報企画を担当する坂口愛沙氏（理工系URAの立場）、②国内・国外での研究経験を有しシンガポール国立大学でテニユア研究者として活躍中の遠山祐典氏（若手・中堅研究者の立場）、③地域や産業等の異業種との人的ネットワークや研究支援に携わる北海道大学産学連携推進本部・戦略企画部門の城野理佳子氏（産学連携支援の立場）、④若手研究者支援実施立案等に関わってきた文部科学省の池田宗太郎氏（政策立案の立場）。

セッション後半では上記登壇者とともに、主に研究資金や環境、キャリア形成に焦点を当て、若手から中堅研究者への支援の良い塩梅について議論する。進行役は大阪大学経営企画オフィスURAの川人よし恵氏が担当する。セッション終了後は経営企画オフィスURA有志と部局URA有志の協力により、議論で得られたアイデアを共有し、大学における若手支援の施策提言へ繋げていきたい。

オーガナイザー

谷 真紀:大阪大学・経営企画オフィス部門・リサーチ・マネージャー/特任准教授



日本学術振興会特別研究員、米国イリノイ大学シカゴ校、東京大学医学系研究科にて、脳の神経活動の伝達のしくみに関する研究に従事。2011年より米国マサチューセッツ州ウッズホール海洋生物学研究所(MBL)にて神経活動の非侵襲イメージングの研究に従事。2019年9月から関西大学URA、2020年6月より現職。先導的学際研究機構生命医科学融合フロンティア研究部門を兼任し、主に生命医科学系の研究支援を行っている。

講演者

**坂口 愛沙:大阪大学・大学院理学研究科企画推進本部・
リサーチ・アドミニストレーター/助教**



2007年名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻博士課程修了（博士（理学））。米国オハイオ州立大学、ノースカロライナ大学での博士研究員、群馬大学生体調節研究所・助教を経て、2015年6月より大阪大学大学院理学研究科URA。主に、計画評価、研究企画推進、広報企画を担当。教員の研究・教育活動に費やす時間の確保や、高度博士人材の育成・獲得のためのサポートを行っている。

**池田 宗太郎:文部科学省・高等教育局大学振興課
大学改革推進室大学院第一係・係長**



京都大学大学院生命科学研究所博士後期課程単位取得退学（専門はウイルス・免疫学）、2018年文部科学省総合職技術系入省。科学技術・学術政策局政策課を経て、2019年7月より研究振興局基礎研究振興課にて、「戦略的創造研究推進事業」を担当するとともに、「創発的研究支援事業」の立ち上げ及び推進に従事。2020年10月、省内若手有志の取組として研究室環境や博士進学を考えるワーキンググループ「AirBridge」を設立。

**遠山 祐典:シンガポール国立大学・メカノバイオロジー研究所・
准教授**



横浜市出身。1998年北海道大学工学部電気工学科卒業。2003年大阪大学大学院工学研究科博士課程修了（工学博士）。大阪大学レーザー核融合研究センター博士研究員、Duke大学物理学科博士研究員を経て、2010年よりシンガポール国立大学理学部生物科学科助教として研究室を主宰。2018年より同准教授。2010年よりメカノバイオロジー研究所主任研究員兼任。研究内容は個体発生・細胞死のメカノバイオロジー。

**城野 理佳子:北海道大学・産学・地域協働推進機構・
産学協働マネージャー**



北海道大学特定研究部門にて地域との産学官連携に従事。化粧品を開発・販売する合同会社の設立に参画。2009年より知財・産学連携本部（現産学・地域協働推進機構）に移り、産学連携の橋渡し、知的財産、ABS等の支援業務を行っている。2015年よりJSTマッチングプランナープログラム（現A-STEPトライアウト）プログラムオフィサー（東北・北海道）、2020年より産学官連携ジャーナル編集委員に従事。

**川人 よし恵:大阪大学・経営企画オフィスURA部門・
チーフ・リサーチ・アドミニストレーター**



民間企業で行政広報やまちづくり等の業務に携わった後、2010年4月より大阪大学において研究と社会をつなぐ業務等に従事。現在はURAとして、主に外部資金獲得支援や、若手研究者支援業務、人社系と自然科学系の連携促進関連業務などを担当。2018年10月より、社会ソリューションイニシアティブ（SSI）企画調整室兼任。京都大学文学部卒業、大阪大学工学研究科博士後期課程単位取得退学。